学生の留学志向をめぐる調査および各種留学プログラムの現状と課題

澤　谷　敏　行（国際連携機構事務部・研究代表者）
志　甫　　啓（国際学部）
Jesse E. Olsen（メルボルン大学）
菱　岡　洋　志（学長室）
林　　喜　恵（国際連携機構事務部）

要　旨

日本人の学生が内向き志向といわれているなかで、大学は学生に留学を促す施策を打ち立てようとしているが、そのために必要な学生の心理的な要因を調査し、留学のための環境づくりを行う必要がある。本研究は、学生の心理的な要因を調査するとともに、大学の提供する留学プログラムが学生のニーズによって多様な変化を遂げようとしている現状と課題について論じている。まず本学学生へのアンケート調査に基づくデータを分析し、次いで他大学を訪問し、ヒアリング調査等で得た情報をもとに留学プログラムを検討する。

1. 学生が留学を志向する要因と阻害要因の分析

1.1　調査目的と分析手法

「留学に行きたい」と思っている学生が「実際に留学に行く」行動をとるまでの間にどのような要因が行動を左右しているのか、ということが私達の根底にある疑問であった。 そこで留学を希望する学生が履修する授業科目「留学とキャリア設計」（全学開講）で、2013年度に学生たちの書いた自己分析レポートの一部からその要因を抽出し、そしてそれをアンケートとして同授業科目の2014年度履修者80名、それと全く関係しない社会学部２年生の必修科目「キリスト教学Ⅱ」230人、経済学部２年生「ゼミ」20人を対象として調査を行い、合計261人の回答をもとに分析を行った。

アンケート項目として挙げた項目は、留学へのモチベーションをより高める要因と逆に留学を阻害する要因である。留学へのモチベーションを高める要因は、留学目的でもあり、「言語・コミュニケーションのスキルを高めたい」「自分の人格形成をしたい」「将来の仕事にプラスになると思う」「グローバル化、多様化、多文化の中では必要だと思う」……といった項目となっており、多種多様な要因となる項目が挙げられた。一方で留学をしない理由、留学するための心配や障害になっている項目としては、「お金が足りない、留学は高すぎる」「親が反対する」「危ない、治安が良くない」「時間がない、忙しい」「言語・コミュニケーションのスキルが足りない」「留学に興味がない」「外国・海外のことに興味がない」「日本が好き」……といった項目となっており、

やはり多種多様な要因となる項目が挙げられた。

この調査の分析は、「留学に行きたい」と思っている学生が、「実際に留学に行く」行動をとるまでの間にどのような要因が行動を左右しているか、ということであり、「行きたい」学生が「行かない」といった行動をとる阻害要因も同時に分析することも目的である。そこで私たちは、Ajzen（1985）の Theory of Planned Behavior（計画的行動理論）を援用することとした。彼によれば、行動（Behavior）は、行動意図（Behavioral Intentions）からつながり、行動意図は、１）Attitude toward the Behavior（行動に対する態度）、２）Subjective Norms（主観的規範）、および３）Perceived Behavioral Control（行動の統制可能性の認知）の３つの要因の結果であるという。これに従い私たちは、留学に対する態度に加え、家族や友人からの影響や本人自身が認知している自分の能力などについて、アンケート調査を実施した。

そして、組織行動学者の Mitchell（1982）の理論も援用すると、目標指向行動は、能力と意欲と環境の３変数の関数で表される。つまり、Performance（業績・成果、または目標指向行動）＝Ability（能力）×Motivation（意欲）×Environment（環境）である。「医者が患者の病気を治療するケース」を例とすれば、「医師免許」という国家から与えられた資格（能力）、「医師が病気を治したい」という気持（意欲）、そして「病院」という施設・設備（環境）が必要であり、そのうち一つが欠ければ病気を治すことはできない。それは足し算ではなく、掛け算で、ゼロが一つあれば結果がゼロであり、数値の高低がシナジーの高低に連動するものである。これを、留学の場合にあてはめると、TOEFL などの言語運用能力や授業の成績（能力）×「留学希望」（留学目的などのモチベーション）×「留学制度」（自分の目的に合った留学制度、留学費等の環境）であるといえる。今回のアンケート調査の分析では、そのなかでモチベーション要因及び阻害要因についてその関連を探った。

1.2　調査結果

今回のアンケート調査の分析結果を、３つの表にまとめることができた。

表１は、留学や国際交流をしたい程度「どの程度したい」（以下「したい程度」）と留学を実現しようとする程度「どの程度するつもり」（以下「実現しようとする程度」）をまとめた結果である。またそれぞれを短期海外プログラム（以下短期）、中期留学（以下中期）、長期留学（以下長期）、国内の国際交流（以下国内）のプログラムごとに分けた数値である。ここでは、「したい程度」は、１～５段階の評価の回答を平均したところ、どのプログラムも３ポイント台の高い数値を示している。プログラム間で大きな差が見られないが、わずかな差で順番をつけると短期が一番高く、国内、中期、長期の順でとなっている。一方「実現しようとする程度」と「したい程度」の相関では、逆に長期が最も高く、長期（0.714）、中期（0.690）、国内（0.687）、短期（0.681）の順となっている。「したい程度」では、実現が易しいと思われる短期からの順で「実現しようとする程度」では、逆に実現が困難と思われる長期からの順番になっている。これは長期留学を希望する学生の決意の強さが数値に表れているものと考えられる。

表２は、モチベーション要因、阻害要因、経験、その他をそれぞれに平均、短期、中期、長期、国内でみた結果である。これはまたアンケート調査の全体結果を表したものである。

留学に関する学生調査票

留学に関する学生調査

本調査は、留学の希望、モティベーションなどを探る研究の一環として行うものです。本研究は、関西学院大学高等教育推進センターの研究助成を受けています。

尚、本調査票は全て厳重な管理のもと、記号化され、統計以外の目的に使用することはなく、ご協力いただいた方にご迷惑をおかけすることは決してありません。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先： 関西学院大学 国際連携機構事務部 澤谷敏行、国際学部 ジェシー・オルセン

A、あなたは下記のプログラムにどの程度参加**したい**ですか。又、「したい」「したくない」にかかわらず、どの程度**するつもり**ですか。（経験のあるプログラムについては、どの程度再びしたいか、するつもりかをご回答の上、「経験あり」の列の□に✓をつけてください。）

プログラムの種類	どの程度したい？ 1＝全くしたくない 2＝あまりしたくない 3＝どちらでもいい 4＝まあまあしたい 5＝とてもしたい	どの程度するつもり？ 1＝絶対しない 2＝しないと思う 3＝わからない 4＝すると思う 5＝必ずする	経験あり （ある場合は✓をつけてください。）
1. 短期の海外でのプログラム（1学期間未満：夏のプログラム、短期の外国語研修、海外インターンシップ、ジョイントセミナーなど）	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	□
2. 中期留学（1学期間程度）	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	□
3. 9ヶ月以上の留学（1年間の交換留学など）	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	□
4. 国内の国際交流プログラム（日本語パートナー、外国からの大学生とのセミナー、フィールドワークなど）	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	□

B、下記の項目は、あなたご自身にとって、どの程度留学する理由・モティベーション・きっかけになっていますか。
（1＝全く当てはまらない、5＝とても当てはまる）

1. 言語・コミュニケーションのスキルを高めたい	1 2 3 4 5
2. 自分の人格形成をしたい	1 2 3 4 5
3. 将来の仕事にプラスになると思う	1 2 3 4 5
4. グローバル化、多様化、多文化の中では必要だと思う	1 2 3 4 5
5. 何か具体的な名勝、場所、自然、会社などを自分の目で見たい	1 2 3 4 5
6. 他の文化を知りたい	1 2 3 4 5
7. 友達の海外経験について聞いたり読んだりしたこと	1 2 3 4 5
8. 家族のどなたかの海外経験について聞いたり読んだりしたこと	1 2 3 4 5
9. 知り合いではない人の海外経験について聞いたり読んだりしたこと	1 2 3 4 5
10. 日本国内での外国人との交流の経験	1 2 3 4 5
11. 他の国の歴史、法律、政治、経済などの勉強・研究がしたい	1 2 3 4 5
12. 将来、外国に住みたい	1 2 3 4 5
13. 日本のことを外から見たい・日本のことをより知りたい	1 2 3 4 5
14. 外国で友達を増やしたい	1 2 3 4 5
15. 将来、外国の大学院で勉強したい	1 2 3 4 5
16. 大学を卒業すれば、他にチャンスがない・今しかない・後悔したくない	1 2 3 4 5
17. その他：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	1 2 3 4 5

C、下記の項目は、あなたご自身にとって、どの程度留学をしない理由、または留学するための心配、障害になっていますか。
（1＝全く当てはまらない、5＝とても当てはまる）

1. お金が足りない、留学は高すぎる	1 2 3 4 5
2. 親が反対する	1 2 3 4 5
3. 危ない、治安が良くない	1 2 3 4 5
4. 時間がない、忙しい	1 2 3 4 5
5. 言語・コミュニケーションのスキルが足りない	1 2 3 4 5
6. 留学に興味がない	1 2 3 4 5
7. 外国・海外のことに興味がない	1 2 3 4 5
8. 日本が好き	1 2 3 4 5
9. 外国でいい成績がとれない、単位がとれないかもしれない	1 2 3 4 5
10. 就職活動が難しくなる	1 2 3 4 5
11. 家族から離れたくない	1 2 3 4 5
12. 友達から離れたくない	1 2 3 4 5
13. 他の国の食べ物が食べられない・食べたくない	1 2 3 4 5
14. 日本の医療機関から離れられない・離れたくない	1 2 3 4 5
15. その他：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	1 2 3 4 5

D、下記の経験の有無についてご回答をお願いいたします。

1. TOEFL の受験	有 (スコア：)	無
2. TOEIC の受験	有 (スコア：)	無
3. 日本語能力試験	有 (何点/級？)	無
4. その他の言語能力の試験（英語又はその他の言語をすべて含め）	有 (試験の種類＿＿＿＿＿＿/ 何点/級？＿＿＿＿＿＿) (試験の種類＿＿＿＿＿＿/ 何点/級？)	無
5. クラブやサークルの活動	有	無
6. アルバイト、仕事	有 (期間： 年 ヶ月間)	無
7. インターンシップ	有 (期間： 年 ヶ月間)	無
8. 留学経験	有 (期間： 年 ヶ月間)	無
9. 海外旅行の経験	有 (何回？)	無
10. 日本以外の国での居住の経験	有 (期間： 年 ヶ月間)	無

E、あなたについて、次の項目にご回答をお願いします。

1. いままでの平均の成績（100点満点）はどれくらいありますか。	a. 90（4.0 GPA） b. 80（3.0 GPA）以上 90（4.0 GPA）未満 c. 70（2.0 GPA）以上 80（3.0 GPA）未満 d. 60（1.0 GPA）以上 70（2.0 GPA）未満 e. 60（1.0 GPA）未満	
2. 国籍（複数の場合はすべてご記入をお願いします。）		
3. 学部：	4. 学年：	
5. 大学卒業後、どのような進路を希望されていますか。	a. 就職 b. 進学 c. その他（ご記入ください： ）	
6. 卒業された高校の所在地（外国の場合は国と市町村をご記入願います。）	都道府県： 市町村： (又は国)	
7. 年齢： 歳	8. 性別 （○をつけてください。）	男性 女性

本調査にご協力をいただき、ありがとうございました。

表１

項目	平均	標準偏差	ピアソンの積率相関係数							
			短期海外プログラム		中期留学		長期留学		国内の国際交流	
			どの程度したい？	どの程度するつもり？	どの程度したい？	どの程度するつもり？	どの程度したい？	どの程度するつもり？	どの程度したい？	どの程度するつもり？
短期海外プログラム										
どの程度したい？	3.73	1.217								
どの程度するつもり？	2.90	0.991	.681**							
中期留学										
どの程度したい？	3.28	1.322	.630**	.362**						
どの程度するつもり？	2.55	1.067	.398**	.455**	.690**					
長期留学										
どの程度したい？	3.18	1.411	.487**	.277**	.619**	.465**				
どの程度するつもり？	2.49	1.176	.307**	.336**	.327**	.490**	.714**			
国内の国際交流										
どの程度したい？	3.61	1.214	.508**	.362**	.416**	.293**	.523**	.379**		
どの程度するつもり？	2.96	1.046	.340**	.485**	.228**	.354**	.311**	.429**	.687**	

N=241-257
* = 統計的に有意な効果（*p*<.05, 2-tailed）
** = 統計的に有意な効果（*p*<.01, 2-tailed））

表２

項目	平均	標準偏差	ピアソンの積率相関係数							
			短期海外プログラム		中期留学		長期留学		国内の国際交流	
			どの程度したい？	どの程度するつもり？	どの程度したい？	どの程度するつもり？	どの程度したい？	どの程度するつもり？	どの程度したい？	どの程度するつもり？
Motivators										
1. 言語・コミュニケーションのスキルを高めたい	4.34	0.991	.527**	.363**	.473**	.363**	.506**	.372**	.505**	.412**
2. 自分の人格形成をしたい	3.93	1.144	.390**	.347**	.318**	.329**	.382**	.349**	.444**	.391**
3. 将来の仕事にプラスになると思う	4.20	1.067	.477**	.326**	.411**	.331**	.431**	.351**	.339**	.284**
4. グローバル化、多様化、多文化の中では必要だと思う	4.02	1.047	.426**	.318**	.414**	.336**	.387**	.339**	.412**	.315**
5. 何か具体的な名物、場所、自然、会社などを自分の目で見たい	3.93	1.089	.415**	.297**	.381**	.360**	.344**	.304**	.360**	.343**
6. 他の文化を知りたい	4.03	1.112	.443**	.410**	.320**	.296**	.384**	.327**	.436**	.384**
7. 友達の海外経験について聞いたり読んだりしたこと	3.27	1.304	.370**	.331**	.353**	.333**	.386**	.345**	.356**	.296**
8. 家族のどなたかの海外経験について聞いたり読んだりしたこと	2.77	1.449	.214**	.167**	.258**	.278**	.366**	.352**	.230**	.170**
9. 知り合いではない人の海外経験について聞いたり読んだりしたこと	2.97	1.360	.337**	.332**	.344**	.369**	.399**	.386**	.275**	.281**
10. 日本国内での外国人との交流の経験	3.36	1.284	.303**	.224**	.300**	.329**	.406**	.374**	.370**	.328**
11. 他の国の歴史、法律、政治、経済などの勉強・研究がしたい	2.89	1.341	.166**	.186**	.206**	.205**	.231**	.252**	.214**	.224**
12. 将来、外国に住みたい	2.94	1.403	.356**	.272**	.393**	.353**	.492**	.394**	.325**	.259**
13. 日本のことを外から見たい・日本のことをより知りたい	3.40	1.304	.412**	.342**	.375**	.304**	.362**	.253**	.369**	.326**
14. 外国で友達を増やしたい	3.66	1.256	.455**	.353**	.436**	.385**	.514**	.423**	.535**	.434**
15. 将来、外国の大学院で勉強したい	2.16	1.263	.197**	.235**	.248**	.325**	.365**	.345**	.245**	.244**
16. 大学を卒業すれば、他にチャンスがない・今しかない・後悔したくない	3.66	1.371	.412**	.328**	.351**	.314**	.379**	.346**	.382**	.385**
Demotivators, Inhibitors										
1. お金が足りない、留学は高すぎる	3.67	1.334	.001	−.116	−.005	−.054	−.010	−.107	−.002	−.096
2. 親が反対する	1.82	1.134	−.028	−.050	.030	−.007	−.052	−.094	−.016	−.058
3. 危ない、治安が良くない	2.57	1.245	−.047	.043	−.106	−.073	−.242**	−.249**	−.105	−.032
4. 時間がない、忙しい	3.15	1.296	.016	.009	.053	−.059	−.061	−.118	−.027	.000
5. 言語・コミュニケーションのスキルが足りない	3.74	1.180	−.130*	−.059	−.102	−.083	−.205**	−.121	−.234**	−.090
6. 留学に興味がない	2.09	1.326	−.584**	−.321**	−.468**	−.291**	−.523**	−.334**	−.462**	−.310**
7. 外国・海外のことに興味がない	1.89	1.139	−.405**	−.168**	−.297**	−.159*	−.331**	−.173**	−.376**	−.239**
8. 日本が好き	3.30	1.308	−.206**	−.110	−.123	−.066	−.207**	−.128*	−.159*	−.102
9. 外国でいい成績がとれない、単位がとれないかもしれない	3.19	1.371	−.167**	−.060	−.082	−.020	−.174**	−.144*	−.252**	−.160*
10. 就職活動が難しくなる	2.68	1.255	−.086	−.013	.047	.127*	−.045	−.064	−.139*	−.055
11. 家族から離れたくない	2.51	1.328	−.045	−.058	−.084	−.107	−.144*	−.061	−.073	.001
12. 友達から離れたくない	2.67	1.347	−.107	−.060	−.028	−.011	−.176**	−.048	−.120	−.038
13. 他の国の食べ物が食べられない・食べたくない	2.39	1.335	−.099	.052	−.092	−.020	−.240**	−.124	−.101	−.026
14. 日本の医療機関から離れられない・離れたくない	2.49	1.334	−.125*	.011	−.088	−.031	−.220**	−.134*	−.126*	−.064
経験										
1. TOEFL スコア（*N*=34）	475.68	39.825	−.081	−.107	.236	.098	.325	.373*	.028	.027
2. TOEIC スコア（*N*=165）	511.02	122.694	.035	.053	.077	.120	.200*	.235**	.138	.169*
3. クラブやサークル活動の有無	0.88	0.327	.064	.053	.029	−.013	−.012	−.061	.019	−.020
4. アルバイト、仕事経験の有無	0.81	0.393	.109	.042	.144*	.097	−.023	−.122	.016	−.019
5. インターンシップ経験の有無	0.03	0.167	.060	.047	−.015	.083	.018	−.024	−.003	.007
6. 留学経験の有無	0.15	0.358	.018	.004	.021	−.043	.159*	.094	.187**	.111
7. 海外旅行経験の有無	0.64	0.480	.164*	.087	.148*	.125	.216**	.230**	.130*	.090
8. 日本以外の国での居住の経験の有無	0.12	0.330	.057	−.113	.053	−.053	.123	.055	.037	−.077
その他										
1. 成績（Approx. GPA: 0 = low, 4 = high; *N*=197）	1.97	0.681	.059	.116	.033	.022	.005	.049	.082	.099
3. 学年	1.16	0.486	−.064	−.114	.002	−.042	.044	.007	.002	−.103
4. 卒業後の進路：就職	0.88	0.324	−.080	−.087	−.071	−.051	−.100	−.097	−.116	−.013
5. 卒業後の進路：進学	0.02	0.150	.034	.015	.007	−.057	.090	−.022	.050	−.020
6. 年齢	18.91	0.709	−.022	−.055	−.078	−.142*	−.072	−.141*	−.043	−.094
7. 性別（1=男性）	0.39	0.488	−.170**	−.022	−.081	.083	−.076	.065	−.189**	−.097

N=241-260（断りのない限り）
* = 統計的に有意な効果（*p*<.05, 2-tailed）
** = 統計的に有意な効果（*p*<.01, 2-tailed））

モチベーション要因では、平均で高いポイント順に「言語・コミュニケーションのスキルを高めたい」「将来の仕事にプラスになると思う」「他の文化を知りたい」「グローバル化、多様化、多文化の中では必要だと思う」が平均４ポイント以上で飛び抜けている。一方低いポイント順では、「将来、外国の大学院で勉強したい」「家族のどなたかの海外経験について聞いたり読んだりしたこと」「他の国の歴史、法律、政治、経済、などの勉強・研究がしたい」「将来、外国に住みたい」「知り合いではない人の海外経験について聞いたり読んだりしたこと」となっており、平均２ポイント台に留まっている。これを短期、中期、長期、国内で「したい程度」との相関を見てみると、最も平均値の高い「言語・コミュニケーションのスキルを高めたい」の短期、長期、国内と、「外国で友達を増やしたい」の長期、国内が0.5ポイント台の高い数値となっており、これらに強い関係がみられる。逆に「将来、外国の大学院で勉強したい」「家族のどなたかの海外経験について聞いたり読んだりしたこと」「他の国の歴史、法律、政治、経済、などの勉強・研究がしたい」では、大半で0.2ポイント台の低い数値となっていて、弱い関係となっている。

阻害要因では、平均で高いポイント順に「言語・コミュニケーションのスキルが足りない」「お金が足りない、留学は高すぎる」「日本が好き」「外国でいい成績がとれない、単位がとれないかもしれない」「時間はない、忙しい」が平均３ポイント以上で、次に「留学に興味がない」、「他の国の食べ物が食べられない・食べたくない」、「日本の医療機関から離れられない・離れたくない」「家族から離れたくない」「危ない、治安が良くない」「友達から離れたくない」「就職活動が難しくなる」が平均２ポイント台と続いている。阻害要因としては、「親が反対する」「外国・海外のことに興味がない」の項目は平均が１ポイント台で、最も低い。しかし、実際にいざ留学が決まった段階で、しばしば親の反対が起こっている。それは学生自身が具体的な親の考えをよく知り得ていないということからである。「親が反対する」は、学生の留学を断念する決定的要因ともなり得るものである。決定的な要因にならないためには、留学を希望する学生は親との情報共有とともに意識共有も必要である。

「留学に興味がない」（平均値2.09ポイント）の項目が、短期、中期、長期、国内との関係性では、－0.4～－0.5ポイント台と高いマイナス値となっており、当然ながら留学の障害要因と強い関係性を示している。

なお、経験については、全体としての調査結果は、平均で TOEFL475点、TOEIC511点、クラブやサークル活動有88％、アルバイト、仕事経験の有81％、留学経験有15％、海外旅行経験の有64％、日本以外の国での居住の経験の有12％であった。その他の項目とモチベーションとの相関関係の分析は必要であるが、今回の報告では紙幅の関係で省くこととする。

表３は、アンケート調査の対象とした学生を２つのグループに分けて結果を比較したものである。ａグループ（以下ａ）は「留学とキャリア設計」の授業を履修している学生を対象としたもので、ｂグループ（以下ｂ）はそれ以外の一般のクラスの学生を対象とした調査結果である。この２つのグループの間にどのような違いがあるのかを比較した。

まず短期、中期、長期、国内のプログラムについての「したい程度」「実現したい程度」の比較では、当然ながらａの平均値はすべての項目でｂのポイントを上回っている。特に中期、国内のプログラムの「したい程度」が留学を考えるａの学生たちにとって、人気が高いものとなっているのが本学の特長である。

表 3

項目	全員（N=261）	a）留学を考える授業の履修者平均（N=54）	b）一般学生平均（N=207）	差（a−b）
短期海外プログラム				
どの程度したい？	3.73	4.00	3.67	0.33 †
どの程度するつもり？	2.90	3.80	3.14	0.66 **
中期留学				
どの程度したい？	3.28	4.11	2.94	1.18 **
どの程度するつもり？	2.55	4.17	3.47	0.71 **
長期留学				
どの程度したい？	3.18	3.19	2.83	0.37 *
どの程度するつもり？	2.49	3.13	2.39	0.74 **
国内の国際交流				
どの程度したい？	3.61	3.50	2.22	1.28 **
どの程度するつもり？	2.96	3.55	2.81	0.74 **
Motivators				
1. 言語・コミュニケーションのスキルを高めたい	4.34	4.83	4.21	0.62 **
2. 自分の人格形成をしたい	3.93	4.63	3.75	0.88 **
3. 将来の仕事にプラスになると思う	4.20	4.65	4.08	0.57 **
4. グローバル化、多様化、多文化の中では必要だと思う	4.02	4.59	3.87	0.72 **
5. 何か具体的な名物、場所、自然、会社などを自分の目で見たい	3.93	4.35	3.82	0.53 **
6. 他の文化を知りたい	4.03	4.55	3.89	0.65 **
7. 友達の海外経験について聞いたり読んだりしたこと	3.27	3.74	3.14	0.60 **
8. 家族のどなたかの海外経験について聞いたり読んだりしたこと	2.77	3.26	2.64	0.62 *
9. 知り合いではない人の海外経験について聞いたり読んだりしたこと	2.97	3.83	2.75	1.09 **
10. 日本国内での外国人との交流の経験	3.36	4.06	3.18	0.88 **
11. 他の国の歴史、法律、政治、経済などの勉強・研究がしたい	2.89	3.28	2.79	0.49 *
12. 将来、外国に住みたい	2.94	3.67	2.75	0.92 **
13. 日本のことを外から見たい・日本のことをより知りたい	3.40	4.17	3.19	0.97 **
14. 外国で友達を増やしたい	3.66	4.56	3.43	1.13 **
15. 将来、外国の大学院で勉強したい	2.16	2.63	2.03	0.60 **
16. 大学を卒業すれば、他にチャンスがない・今しかない・後悔したくない	3.66	4.42	3.46	0.95 **
Demotivators, Inhibitors				
1. お金が足りない、留学は高すぎる	3.67	3.47	3.72	−0.25
2. 親が反対する	1.82	1.57	1.88	−0.32 †
3. 危ない、治安が良くない	2.57	2.23	2.66	−0.44 *
4. 時間がない、忙しい	3.15	2.74	3.26	−0.52 *
5. 言語・コミュニケーションのスキルが足りない	3.74	3.49	3.80	−0.31 †
6. 留学に興味がない	2.09	1.35	2.27	−0.93 **
7. 外国・海外のことに興味がない	1.89	1.31	2.03	−0.73 **
8. 日本が好き	3.30	2.88	3.40	−0.52 *
9. 外国でいい成績がとれない、単位がとれないかもしれない	3.19	2.87	3.28	−0.41 †
10. 就職活動が難しくなる	2.68	2.46	2.74	−0.27
11. 家族から離れたくない	2.51	2.00	2.65	−0.65 **
12. 友達から離れたくない	2.67	2.21	2.78	−0.57 *
13. 他の国の食べ物が食べられない・食べたくない	2.39	1.96	2.50	−0.54 *
14. 日本の医療機関から離れられない・離れたくない	2.49	1.96	2.63	−0.67 **
経験、その他				
TOEFL スコア	475.68	473.08	477.09	−4.01
TOEIC スコア	511.02	545.94	501.62	44.33 †
成績（Approx. GPA: 0=low, 4=high; *N*=197）	1.97	2.27	1.95	0.32 †
学年	1.16	1.32	1.12	0.2 *
年齢	18.91	18.46	19.03	−0.57 **

† = 統計的に有意な効果ではないが、$p<.10$, 2-tailed

* = 統計的に有意な効果（$p<.05$, 2-tailed）

** = 統計的に有意な効果（$p<.01$, 2-tailed）

次にモチベーション要因「Motivators」をみてみると、１～16のすべての項目でａの数値がｂを上回っている。特に16項目中７項目で0.8ポイント以上の差が見られる。すなわち、差の大きい順に「外国で友達を増やしたい」「知り合いでない人の海外経験について聞いたり読んだりすること」「日本のことを外から見たい・日本のことをより知りたい」「大学を卒業すれば、他にチャンスがない・今しかない・後悔したくない」「将来外国に住みたい」「自分の人格形成をしたい」「日本国内での外国人との交流の経験」の順となっている。特に「外国で友達を増やしたい」という項目がａとｂで最も大きな違いとなっている。次に阻害要因をみてみると、ここではすべて

の項目でａがｂより低い数値を示している。14項目中４項目で0.6ポイント以上の差が見られる。すなわちマイナスの差が大きい順に「留学に興味がない」「外国・海外のことに興味がない」「日本の医療機関から離れられない・離れたくない」「家族から離れたくない」となっている。最も差の大きい２項目は、「留学に興味がない」と「外国や海外に興味がない」である。これでは留学が考えられないのは当然である。

以上から留学を希望するａの学生は、一般のｂの学生に比較すると、モチベーションの項目すべてでポイントが上回り、阻害要因の項目でもすべてでポイントが下回っている。留学を希望する決意があるとすれば、当然のことのように思われる。その理由としては、ａの学生は、意欲が高く、その意欲が阻害要因を克服しているのではないのかと考えられる。あるいは阻害要因が低いために意欲が高まったということかも知れない。逆に阻害要因の高い学生は、意欲が抑えられている。あるいは意欲が低いため阻害要因が高まっているといえるかもしれない。そして留学の意欲を高めたり、逆に阻害となったりする項目は、個々人にとってさまざまで多様である。そしてMitchellの理論を援用すれば、これは足し算ではなく掛算であるため、一つでも決定的な阻害要因が現れれば、留学希望があっても留学行動につながることはない。ただ決定的と思われる阻害要因も本人や親の意識が変化することで乗り越える場合がある。いずれにしてもモチベーション要因＞阻害要因＝留学行動の高さという全体構図には変わりがないといえる。

なお、表３ではTOEFLの平均値について、ａがｂを下回っているが、この点数は統計上のミスではなく、アンケート調査ではａの学生の大半が回答しているが、ｂの学生はTOEFL受験者が限られていて、回答者が少ないため、比較できるデータが得られなかったためである。

2. 大学が企画する留学プログラムの変化

2.1　多様な留学制度の実態

学生の多様なニーズに対応するために、留学制度も多様化が進んでいる。本学の場合、１年間の交換留学を長期留学と称し、春学期、秋学期のセメスターで留学するものを中期留学としている。また夏休み、春休みの間に１ヵ月程度で留学するのは短期留学である（表４参照）。在京大学３校のヒアリング等調査によれば、短期留学への参加者数が増加し、留学期間が長くなるに従って、その人数は頭打ちになっている。在京私立Ｃ大学では、北米圏への留学に人気が集中しているが、近年アジア圏では香港やシンガポールといった英語を使用言語に含まれる国への留学も少しずつであるが参加者数が増加している。短期留学については、限られた期間に単位が与えられるプログラムを実施するためには、相手校が既に開講されているプログラムへ参加することが難しいため、自大学用にカスタマイズしてもらっているケースが多く見られた。日本と北米圏、ヨーロッパ圏のアカデミックカレンダーが異なることもその理由として挙げられる。なかには、英語圏でない韓国の大学での英語による授業科目を受けるプログラムも見られる。傾向として、英語圏でない国へ英語による授業科目の履修を目的とした、英語留学の多様化が進んでいくと考えられる。また欧米の大学では教員による“Faculty Lead Program”が古くから実施されている。これは教員が企画、実施する短期海外プログラムであり、教員の引率による海外で行うセミナー、調査研究、フィールドワークなどが含まれている。日本でも既にゼミ単位で行われているが、単位認定には至っていないのが実情である。今後短期海外プログラムの一つとして注目さ

表４　さまざまな留学プログラム

	本学	在京私立Ｂ大学	在京私立Ｃ大学
短期型	外国語研修	短期留学	夏季留学
	国際セミナー	国際インターンシップ	海外フランス語研修
	フィールドワーク		海外日本語教育実習
	インターンシップ		
中期型	国際ボランティア		
	中期留学		
	インターンシップ		
中長期型	交換留学	交換留学	交換留学
	認定留学	認定留学	海外留学プログラム
	ダブルディグリー留学		
その他	Cross-Cultural College	SEND プログラム（日本語教育）	国際サービス・ラーニング
	実践型“世界市民”育成プログラム	FLP 国際協力プログラム	Leadership for Change Program
		グローバル・スチューデント育成講座	
		Field Studies	

れてゆくものと期待される。

2.2　留学奨学金制度の多様化の実態

多くの大学では海外派遣を推奨する政策として、留学奨学金を設置しているが、その制度は多様化している。（表５参照）。

ヒアリング調査等によれば、在京私立Ｂ大学では、文部科学省の「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム奨学金」と似た内容の「やる気応援奨学金」と銘打った留学奨学金を設置している。当奨学金は、学生にプロジェクトを実行するためのトレーニングをするために、留学計画書を作成させプレゼンテーションを行わせ選考している。たとえば、海外での外国語研修を中心とした活動、長期期間海外で勉学等に取り組む活動、学部が設置した関係科目に関連し海外インターンシップを行うことなどを対象としている。また、実際に自分自身で立てた計画を実行し、帰国後に成果発表を行わせているが、成長を自覚させるものとなっている。

本学でも大学全体として交換留学、中期留学等の奨学金を設置しているが、そのほかに、交換

表５　多様な学内奨学金の名称事例

本学	在京私立大学
佐伯海外留学支援奨学金	国外留学生奨学金
交換留学奨学金	認定留学学費減免制度
認定留学助成金 （自大学の学費半額を上限）	フランス語圏派遣留学生特別奨学金
ダブルディグリー留学奨学金	やる気応援奨学金
中期留学奨学金	経済学部グローバル人材育成奨学金
国際社会貢献活動奨学金	国際インターンシップ奨学金
海外大学院派遣奨学金	

留学以外で認定大学に留学した学生を対象とした認定留学奨学金、ダブルディグリー奨学金、国際学生ボランティア活動を対象とした国際社会貢献活動奨学金、学部独自の奨学金制度、さらには学外からの寄付金による冠奨学金などがある。原則全学生に留学を義務づけている国際学部では、独自の留学奨学金により留学する全学生に奨学金を支給している。奨学金の金額も文部科学省の「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム奨学金」のような非常に優遇された金額のものから留学費用の一部を補助するレベルの金額までさまざまで、その名称も選考基準も多様である。

2.3　協定校、協定機関の開拓の方向

現在日本の主要な大学では、海外協定校開発競争の傾向にあり、海外協定校数増加の数字のみの実績を挙げようとする事態が起こっている。本学では2010年以降に急速に海外協定校を増加させた。2005年の海外協定校数は約60校であったが、2010年には120校を超え、2014年４月現在では約160校までに増加した。交換留学、中期留学、短期留学、国際ボランティア等といった種類の派遣に対応する海外協定校、協定機関を開拓してきた。新規協定校の開拓方法は、これまで本学では教員の繋がりや、NAFSA（Association of International Educators）（アメリカ拠点）、APAIE（Asia-Pacific Association for International Education）（アジア太平洋地域）、EAIE（European Association of International Education）（欧州地域）といった国際会議で繋がった大学を海外協定校の候補としてきた。また ACUCA（アジアキリスト教大学連盟）、JPCN（日加戦略的留学生交流促進プログラム）等、自大学の創立に関わる関係、加入しているコンソーシアムを辿って協定締結に至ったケースも見られる。

今回のヒアリング等調査では、海外協定校の候補をどのように探し、またどのような指標に注目して協定を結んで、交流を実質化しているかという点を課題とした。たとえば、在京私立Ｂ大学では、環太平洋地域の海外大学を開拓することとして、国際展開の構想を持ち、ただネームバリューのある大学だけではなく、自校学生のニーズに合う、つまり TOEFL 要求基準や学習内容等が適合する海外協定校を開拓して行くという方針を打ち出している。また在京私立Ｃ大学では、学生交換協定を結ぶに当たって、相手校に日本研究やアジア研究があるかという点に注目して、協定締結後に受入れ、派遣にインバランスが起きないよう海外協定校選びを行っている。海外協定校の開発は、それぞれの大学の海外戦略の基本構想に基づくもので、各大学によってそれぞれの方針を持って取り組んでいる。しかし、海外協定校数が増加する一方で、交流が薄れてしまった海外協定校との間では、ペーパーワークのみが増加し、実際的な学生・教員交流がなくなっていることが課題である。そこでの問題は、海外協定校の実質化をどう考えるかということである。両大学間のニーズに合った新しいプログラムを導入するなど、海外協定校との交流内容や協定内容を更新しながら実質化を図ることが必要となってきている。現在、文部科学省の推進する国際化を受けて、各大学では既存の海外協定校との間でダブルディグリー、ツイニングプログラム、ジョイントディグリーなどの新しいプログラムが実施できるよう調整が行われている。

2.4　協定校とのインバランス解消の方法

学生交換の受入れと送出し（派遣）のインバランスは、多くの大学において起こっている。受

入れ超過、派遣超過のいずれの場合もある。交換留学は、２大学間で結ばれた協定に基づいて、毎年学生の受入れ、派遣の交換の定員が決められるからである。日本の大学は一般に先進国への派遣が超過し、一方で開発途上国から日本への受入れが超過する傾向にある。例えば、本学では、北米圏（アメリカ、カナダ等）と欧州圏（イギリス、ドイツ、北欧等）への派遣が超過し、アジア圏（中国、ベトナム、インドネシア等）からの受入れが超過となっている。その結果、派遣募集中止をしたりする事態が起きる。時には、協定を打ち切ることにもなりかねない。派遣学生の意向、意欲が先進国には向くが、開発途上国には向かない実態が少なくとも傾向としてはある。その原因としては、生活上のアメニティの問題、開発途上国の文化への不十分な認知が起因している。たとえば、ヒアリング調査等では、在京私立Ｂ大学の場合においては、安価なプログラムとしてフィリピンへの短期留学を開発したが、参加者を集めることができなかったと聞く。もちろん、英語研修であったが、大学の外に出て英語を使う環境が整っていないというのもその理由であったと考えられる。また根底には、日本人の留学というイメージが、明治維新から第２次大戦後の北米、ヨーロッパというものが原型をなしており、アジア圏への留学の期待値が低いことも要因をなしていよう。

さて、このインバランスの解消について各大学では、どのように戦略を立て、問題を解決しているのであろうか。本学の交換留学の場合においては、北米、ヨーロッパへの留学については、１対１ベースの交換を実施しているが、これを超えて派遣する場合、つまり派遣超過のケースでは、学生に奨学金を与え、相手大学の授業料を本人が負担する授業料非相殺型交換留学を実施している。一方で、より多くの相手大学の学生を受入れるため、相手校が希望する時期やプログラム内容を新規で企画し、受入れ拡大の対策をとっている。今後留学生を呼び込むためには、日本語教育や英語での日本理解に関するプログラムを魅力あるものへ改革し、拡大することが求められている。

逆に開発途上国の協定校からの受入れ超過の場合、支払い能力のある国のケースでは、同様に授業料を協定校から本学に支払ってもらっている。例えば、インドネシアの大学からの大学院留学生は、授業料を自費または相手国の公費で負担している。それ以外は、細かな金額による計算ではなく、大まかな相互主義に基づく解消方法もある。本学での受入れ超過の相当分を相手校への短期留学、ボランティア学生の派遣で解消を図る方法をとっているケースなどである。

また中国の協定大学の場合、相手校からは教員を研究員として長期、中期の期間で受入れるが、本学からの派遣教員は短期である。そのような場合に訪問団の派遣や学生の短期中国語研修を派遣する際に、一部費用の免除やプログラム費用の軽減を行うことにより解消を図っている。そこは金額計算による等価交換ではなく、相手方との物価の違いを配慮した互恵平等によるものとならざるを得ない。

以上が現在行われている協定校とのインバランスの課題と解消方法である。

2.5　海外拠点の活用の事例

大学の海外拠点は増加しつつある。ヒアリング調査等によれば、在京私立Ｂ大学では、環太平洋地域への展開として、ハワイの大学に拠点を設置し、様々な短期プログラムを展開しようとしているなど、主要な大学は、近年海外拠点を増加させ、学生の受入れと派遣に活用している現状

がある。本学と在京私立大学の海外拠点一覧と主な役割は次のようなものである（表６参照）。

本学の場合、現在カナダのトロント市にあるトロント／ビクトリア大学、中国の長春市にある吉林大学と蘇州市にある蘇州大学に海外拠点を置いている。３大学とは長年の協定交流関係があり学術交流、学生交換、その他の交流推進を行っている。トロント大学には2014年度から職員を駐在させ、現地での業務を行っている。以上が現状の事例であるが、このような拠点事務所からいずれは共同研究の拠点に発展する可能性を示唆している。

表６　海外拠点一覧と主な役割

本学	
国/地域	主な役割
カナダ/トロント （トロント大学内）	世界展開力強化事業の現地業務、広報活動や現地の教育研究事情に関する情報収集も行う。
中国/吉林・蘇州 （吉林大学内、蘇州大学内）	産官学民連携（日中経済シンポジウム）のサポート、本学をはじめ中国の諸大学との研究交流の場として、研究・教育面での連携、また学生や教職員同士の交流を推進していく。
海外拠点共通業務	本学に留学する教職員学生への留学サポート、本学からの留学した教職員・学生の現地サポート。現地日本公館に協力して日本文化の発信等のボランティア、現地関係機関とのネットワーキング、本学同窓、留学帰国者等とのネットワーキングなど。そのほか専任職員の人材育成として言語学習、大学内のオフィスでのインターンシップなども行う。

在京私立大学	
国/地域	主な役割
アメリカ/ハワイ （ハワイ大学内）	ハワイ州は世界各国から学生や研究者が集まる国際的な多文化地域であるため、世界各国とのつながりを形成し、特に環太平洋地域全体での事業展開を推進している。特にグローバル人材育成推進事業の遂行を進めている。

3. 今後の課題

1.ではアンケート調査を用い「学生の留学を志向する要因と阻害要因の分析」で留学を志向する学生と一般の学生のモチベーションと阻害要因を比較分析し、2.では他大学の事情をインタビューして「大学が企画する留学プログラムの変化」について分析した。学生の留学志向は、個々人の事情に、また大きくは時代の変化に敏感に反応していている。それ故に学生の留学志向を固定化することはできない。大学は、その変化を的確に捉え、それに基づいたプログラムを開発し、提供することが求められる。私たちの今回の研究調査の分析は、まだまだ不十分であるが、現状の課題と今後の傾向は少し示すことができたと考える。今後の課題としては、今回の調査結果の調査項目「留学に興味がない」「外国と海外のことに興味がない」と回答した学生を含め、内向きの学生に海外に目を向ける授業の設置や留学プログラムを開発することである。そのためには再び学内コンセンサスを得ていくことからはじめる必要があろう。

参考文献

Ajzen, I. (1985). “From intentions to actions: A theory of planned behavior.” In J. Kuhl & J. Beckman (Eds.),

Action-control: From cognition to behavior (pp. 11–39). Heidelberg, Germany: Springer.
Mitchell, T. R. (1982). Motivation: New directions for theory, research, and practice. *Academy of Management Review*, 7(1), 80–88.

調査

・2013年12月17日　在京国立Ａ大学　国際関連センター教授
（大学の国際化を巡る政策動向に係る有識者としてインタビュー）
・2014年３月26日　在京私立Ｂ大学　国際関連センター所長、担当副部長、副課長
（協定校開拓、留学プログラムの傾向に関するヒアリング調査）
・2014年３月27日　在京私立Ｃ大学　国際関連部門長、国際関連部門担当准教授
（協定校開拓、留学プログラムの傾向に関するヒアリング調査）
・その他インターネット等による情報収集